職員短期派遣研修に参加して

地域振興部地域政策課
しまね暮らし推進室
主任　　藤原　良浩

◆研 修 先◆
ＮＰＯ法人もりふれ倶楽部

◆研修時期◆
平成２３年９月～１２月（計６回）

◆研修内容◆
①もりふれ倶楽部の森林インストラクターと県内の小学校に出向き、生徒と学校林を散策し、樹名や特徴を学びながら「樹名版」を設置する課外授業に参加しました。また、杉の木の皮を原料にした和紙づくり体験授業に参加した。

②もりふれ倶楽部の拠点である「島根県立ふるさと森林公園」で小中高校生を受け入れ、昔ながらの調理法（薪で火をおこし、竹を使ってご飯、オムレツ、バームクーヘンを作る）を体験する課外授業に参加した。

③県内各地の森林に出向き、一定の面積内の樹木の数・高さ・太さ等を測定し、間伐の必要性を診断する「森の健康診断」を地域の方々と間伐の重要性を学んだ。

◆研修を終えて感じたこと◆

研修中はＮＰＯ法人の業務に携わりながら、いろいろと話しができたことで、ＮＰＯ法人に対する理解が深まりました。

最大の課題は、継続して活動するために資金をどう確保するかということでした。

もりふれ倶楽部の場合、環境系の普及啓発活動がメインなので収入を上げることが非常に困難で、森林公園の指定管理料や委託事業にかかる委託料が主な収入ですが、行政の厳しい財政事情から収入は減少傾向にあります。

行政の仕事を民間やＮＰＯにというのが時代の流れですが、環境保全のように重要な活動の継続性が損なわれないようバランスを図っていくことが、行政の大きな課題として受け止めなければならないと感じました。

また、私自身、「森林伐採＝環境破壊」という教育を受けてきたように思いますが、今回の研修を通じて貴重な体験ができたことに加え、森林を守るためには「適正な間伐が必要なこと」、「日本の森林は間伐が遅れていること」、「森林に人が入っていくことが森林保全の第一歩」など多くのことを学ぶことができました。

今回、もりふれ倶楽部は、県２名、松江市１名からの研修を受け入れられていました。松江市は今年度から研修をスタートしたと聞きましたが、ＮＰＯだけでなく、島根スサノオマジックを運営する（株）山陰スポーツネットワークなど民間企業も研修先とされているようです。

ＮＰＯや自治会だけでなく民間企業に出て行くことも、地域を知るために必要なことなので、県もこの研修制度のさらなる拡大を検討してはどうかと思いました。